

❖すべての施設は維持できない

市が保有する公共施設（ハコモノ）を、今のまま維持しながら建て替えたり、改修したりする場合（耐用年数を60年に設定）今後50年間の費用を試算した結果、**1年あたり約42億円**が必要になります。

また同様に道路、下水道などのインフラ施設についても多額の更新費用が必要なため、インフラ施設の更新費用も併せて試算すると**年間約85億円**が必要となります。これは市が過去5年間（平成23～27年度）に施設の更新などに使った費用の平均である**年間約50億円**の**1.7倍**の費用を必要とすることになります。財源の確保が一層厳しくなる中、これほどのお金を毎年確保することは不可能です。

これまでのように施設が壊れてから修繕するのではなく、壊れる前から予防的に手を加えることで施設をより長く使用したり、同じ機能を持つ施設の統廃合をしたり、総合的かつ計画的に進めなければなりません。

昔の人たちが生活の中で、当たり前にしてきた「手を入れて長く使う」「少ないスペースを賢く使う」ことが今の私たちに必要な考え方なのかもしれない。

高齢者や子どもの医療費や介護にかかるお金は増えているんだ～。



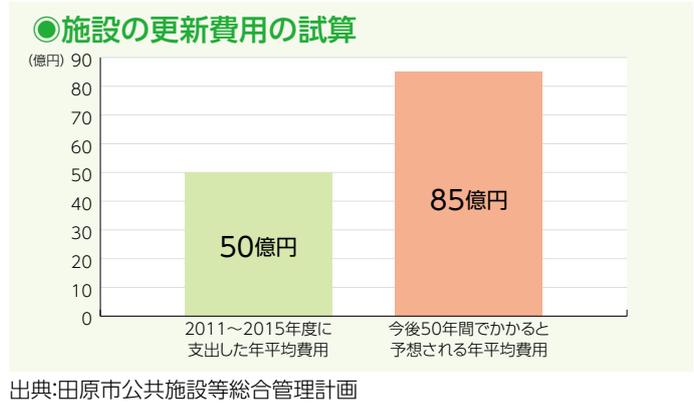
市がさまざまな事業で使えるお金（普通会計歳出額）は今後もだんだん減っていきませんが、**高齢者医療・介護や子どもへの医療費助成**など社会保障に使わざるを得ないお金は増えています。



今のままでもやっていけないのに、使えるお金がもっと減るなんて…



今のままの財政規模でも**毎年約35億円不足**  
※今後さらに更新に投資できる予算は減少する見込みです。



❖将来に負担を先送りしないために

市では、このような状況を踏まえて、必要な行政サービスを維持しながらも費用を抑えるため、公共施設の計画的な更新・集約化・複合化・長寿命化など、総合的な公共施設マネジメントに取り組んでいます。

公共施設マネジメントの今後の目標として、必要な改修などができなくなるようなように、施設にかかる金額を今後10年で20%削減、その後の10年間で10%削減します。

【取り組みの方向性】

- 施設の総量を減らし、維持すべき施設の運営コストを削減します。
  - 施設をできるだけ長く使えるような予防保全を行い、更新時期を延長します。
  - 公共サービスの低下を招かないよう、地域特性に応じた施設配置を目指します。
  - 公共サービスに民間事業者の手法を導入することなどにより、サービスの質の向上を図ります。
- 市では、未来に負担をかけないために、今できることを考え、取り組んでいきます。皆さんのご理解、ご協力をよろしく願います。

企画課 ☎ 335507